

令和2年度学校自己評価システムシート (県立熊谷工業高等学校)

目指す学校像	地域の信頼と期待に応える魅力ある工業高校
--------	----------------------

重点目標	1 確かな学力と専門的な知識・技術を身に付けたスペシャリストを育成する。 2 一人一人の希望を実現する進路指導を推進する。 3 心豊かでたくましく、規律ある態度を育成する。 4 積極的な地域連携により、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学校自己評価							
年度目標				2年度評価(月日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 ・生徒は各学科の専門的な学習に意欲的に取り組んでいる。アンケート結果より84.4%の生徒が授業は分かり易いと感じている。 ・コンテストの参加や資格取得等により生徒の学習意欲が高まっている。 【課題】 ・生徒に客観的な自己の学力を把握させ、学力を向上させる必要がある。 ・研究授業や継続的な授業改善を行い、更なる学力・技術力の定着を図る必要がある。 ・取得資格を精選する必要がある。	・基礎学力の定着と学力の向上 ・専門知識と技術の確実な習得	①生徒・保護者のアンケート結果を共有し、授業改善を行い、基礎学力を定着させる。 ②年3回以上研究授業を実施し、授業力の向上に取り組む。 ③英・数・国の学力基礎診断テストを実施する。 ①国家資格に重点を置き、取得に向けて、計画的な指導を実施する。 ②県教育委員会の事業を活用し、企業や地域等の外部の教育力を継続的・積極的に活用する。	①アンケートの授業に関する項目の肯定的な回答90%以上 ・成績優良者の前年比増と成績不振科目数の前年比減 ②年3回以上の研究授業を実施したか ③英・数・国の学力基礎診断テストを実施したか ①国家資格取得者数前年比増 ②外部講師を継続的・積極的に活用し、生徒の学習意欲・職業観などを高めることができたか			
2	【現状】 ・89.5%の生徒が進路指導行事によって進路に対する意識を高めている。 1学年の段階から3年間を見通した進路指導計画のもと充実した進路指導を実施している。 【課題】 ・学年毎の進路指導を工夫し、早めの意識付けをする必要がある。 ・就職内定率100%を維持する。 ・第1希望の就職内定率を向上させる。	・希望や目標を実現する進路指導の推進	①学年毎の進路指導行事の見直し及び改善により第1希望の就職内定率を向上させる。 ②生徒の希望状況を考慮した企業・大学見学を実施する。大学進学希望者には入試形態に合わせた進路指導を実施する。	①生徒の進路意識の向上と第1希望の企業への就職内定率90%以上、就職内定率が100%となったか ②指定校推薦者数及び進学決定率の前年度比増			
3	【現状】 ・部活動を中心に規律ある態度を育成し、学校全体は落ち着いている。 【課題】 ・全ての教育活動を通じて協調性や規律ある態度を更に伸ばす必要がある。 ・2学期以降の遅刻者数増加を防止する。 挨拶を徹底する。 ・2学期以降の自転車による交通事故が増加傾向にある。 ・自動二輪等の未然の事故防止。	・人間性の向上と時間や規律を守る態度の育成	①授業・部活動・学校行事等とおして、統一的な指導を行う。 ②全教職員で継続的なチャイム着席・挨拶指導・多遅刻者の指導に取り組む。 ③自転車の事故防止についての指導を1学期中に生徒指導部・学年を中心に実施する。スケアードストレードによる交通安全講習を行う。 ・生徒指導部を中心に免許取得者への安全指導と講習会参加を徹底する。	①アンケート調査の規範意識状況、部活動参加率の実績の前年度比増 ②生徒の挨拶の状況 遅刻者数の減少 ③登下校時の自転車の並列運転や傘差し運転の状況 ・1学期中に講習会を実施したか ・スケアードストレードによる交通安全講習を実施したか ・自転車、自動二輪等の事故件数 ・全ての対象者が自動二輪等の安全講習会に参加したか			
4	【現状】 ・インターンシップを継続実施し地元企業との連携に取り組んでいる。 ・出前授業・公開講座・学校見学会等により開かれた学校づくりに取り組んでいる。 【課題】 ・学校の情報を積極的に発信するとともに、地域連携を強化する必要がある。 ・生徒募集に関する取組の精選や見直しを行う必要がある。 ・地域の要望等を踏まえたイベント等への参加。HPの充実等学校情報の発信を工夫する。	・地域連携と積極的な情報発信による、開かれた学校づくり	①地元中学校を中心に通知等により出前授業、体験入学、コンテスト等を周知し実施する。 ②大学、専門学校、企業との連携により生徒の学習意欲や進路選択能力を高める。 ③学習成果物を活用し、地域のイベント等に参加する。 ・学期に1回以上の広報紙を複数の学科で発行する。	①地元中学校を中心に通知等により出前授業、体験入学、コンテスト等を周知し実施したか ・実施後の中学校等の評価 ・生徒募集に関する取組の精選や見直しを行ったか ・全学科の志願倍率が1倍以上になったか ②大学、専門学校、企業との連携状況 ③学習成果物を活用し、地域のイベント等に参加したか ・学期に1回以上の広報紙を複数学科で発行したか			

学校関係者評価	
実施日	令和3年月日
学校関係者からの意見・要望・評価等	